

サーキット・ライダー2007年 3月号

神は我が避けどころ、砦

神はわたしたちの避けどころ、私たちの砦。苦難のとき、必ずそこにいまして助け
てくださる。わたしたちは決して恐れない地が姿を変え山々が揺らいで海の中に移
るとも、海の水が騒ぎ、沸き返りその高ぶるさまに山々が震えるとも。

詩篇 46：1－4.

2月21日の灰の水曜日からレント（苦難節）が始まりました。レントはキリストの苦難を覚え、その死は「贖罪の為」つまり「私達の罪の身代わりとして、全ての罪を背負って下さった」と信じ、感謝する期間です。積み無き神の子イエスが何故苦しみを受けて死ななければならなかったのか、を改めて問い直す時、私達人間は何故苦しむのか、死ぬのかといった存在論的な質問にも目を向けさせられます。

去る2月18日の礼拝で昨年2月19日に38歳の若さで昇天された村富花子姉の1周忌を覚え追悼の聖句、祈禱、説教を捧げました。思えば昨年のこの時期はご家族のみならず日本語ミニストリーの会員全員花子姉の死を悼み喪に服していました。先日御主人が「早かったような、長いような・・・」と感慨深げにおっしゃっていましたが、私達がどのような境地に居ようと、時は巡り世は移り変わっていくことが無常に思えたり、また人智を超えた自然の営みの悠久を感じたりもします。人は生まれ、45億年以上も経つ地球の歴史の中でほんの一時生きそして死ぬ。しかし自分の生、苦しみや喜びを見つめないで生きていく方のなんと多いことでしょう。

2月28日付けのニューヨーク・タイムズのメトロセクションに1996年にカージャックされ、犯人に殺害されたニュージャージーの海岸地帯に住んでいた女性の記事が載っていました。そのご婦人ワインシュタインさんは当時45歳で特殊教育の先生でした。ワインシュタインさんは恐らくは授業などで使うミニ・テープレコーダーを携帯しており、偶然にも彼女と犯人の会話、彼女が殺害される直前の犯人とのやり取りが録音されていました。その会話が犯人の裁判の法廷で公開されました。いきなり犯罪者に襲われ、自分が乗ったまま車を奪われた恐怖に立ち向かいながら、犯人を説得し続ける会話が生々しくその絶望の状況を再現しています。当時まだ未成年だった犯人に彼女は時に感情的になり命乞いしますが、全体としては先生として、また信仰にある者として、犯人の良心に訴えました。ワインシュタインさんはその若い犯人に「自分にも子供がいる。一番の心配はその子のこと。あなたにもお母さんがいるでしょう。これ以上心配させてはいけません。」と語りかけていました。また神を信ずる＝神を恐れることも諭しています。一方、犯行の理由は「明日が自分の誕生日だから、車が欲しかった。」それだけ。犯人にとってワインシュタインさんは全くの通り掛かりで、誰の車でも良い車なら良かった。余りにも自己中心的で憤ります。

この事件が起こったのは昨年日本語教会合同のファミリーキャンプをしたアズバリーパーク近くのショッピング・モールの午後3時、ワインシュタインさんが教えていた中学校はニューヨーク州のミドルタウンというパークリッジから程遠くない町で、それらが、この事件がごく普通の人々がごく普通の状況の中で災いに遭遇したことを物語っています。この事件は決して特殊なケースではなく銃社会のアメリカにあってはどこでも誰にでも起こり得ることです。ところが私達はこのような事件を耳にしても、誰かが病に臥していても、どこか他人事、自分には関わりないと思っています。誰一人として悲しみや苦しみに全く遭わない人はいません。問題はその時、またそれ以降をどう生きるかです。悲しみに遭った時、自分はなんて不幸なんだと思ったり、人を（神を）恨んだりする人もいれば、ただただ自分の不運を嘆いたりする人もいます。しかし一方では起こったことを前向きに捉え、そこから何か自分に足りなかったもの、信仰、勇気、愛、希望などを求める切っ掛けにする人もいます。

詩篇の作者は「たとえ山々が崩れ落ち海の中に移っても、海が山々に届かんばかりに荒れ狂おうとも、神は我が避けどころ、砦。苦難の時の助け」と信じ疑いません。詩篇46篇は幾度も敵に囲まれ、国を失ったユダヤ人達の信仰が見事に表現されており、讚美歌「神は我が力」（讚美歌21、457番）などにもなっている詩です。私達も何時いかなる時にもこのような信仰を持って歩みたいものです。上述の村富さんご一家を始め堪えきれないような悲しみを経験した人たちがその悲しみを乗り越えて元気に逞しく、またごく普通に日々の生活を送られている姿を見るにつけ、その後働き続ける神の愛、癒しを感じずにはいられません。レント期間中、皆様も苦難、死、そして復活に心を留めてお過ごし下さい。吉松 純

礼拝、J r. 教会（日曜学校）は毎日曜日午後4時です。

祈りたい方の為にチャペルを午後3時30分より開放しています。どうぞご利用ください。

3月 4日：自由祈祷会、礼拝：聖餐式、J r. 教会：桃の節句の遊び

11日：自由祈祷会、礼拝、J r. 教会：おはなし会 夏時間になります。1時間お進め下さい。

18日：自由祈祷会、礼拝、J r. 教会：春の料理

25日：自由祈祷会、礼拝、J r. 教会：奉仕を学ぶ

4月 1日：自由祈祷会、棕櫚の聖日礼拝：聖餐式、J r. 教会：棕櫚の聖日、受難週について

行事予定と報告

* 8日（木）午前10時からフォートリーベタニア合同メソジスト教会で聖研。

* 17日（土）午後7時よりパークリッジ合同メソジスト教会でNY日本人教会のゴスペル・デュオ The Happy Hour 田辺尚玄兄、嶋田あや姉を迎え、松尾タカエ姉のユーリズミーを盛り込んだコンサートがあります。詳細をご覧ください。

* 23日（金）午前10時30分より牧師館にて聖書の学び。マルコによる福音書第四章。佐藤彰牧師の本を使つての学び。

* 毎週火曜日午前10時より教会カウンセリング・ルームにてアメリカ人の婦人会メンバーと聖書研究会（英語）があります。英語を学びたい方、聖書に興味ある方は是非ご参加下さい。

* 苦難節期間中、毎週木曜日午後6時よりパークリッジ教会主催でパンとスープの夕食とゲスト・スピーカーをお招きして証しを伺う特別プログラムがあります。どうぞお出かけ下さい。

お知らせ：

* 今年の夏も小学生を対象としたサマーキャンプをします。その案内ができました。ご近所で小学生のお子さんがいらっしゃる方に是非お勧め下さい。

御協力お願い致します。献金のあて先は UMC-JA とし、寄付のあて先を Note に記してください。

* ハーベスト・タイム放映の為、献金、お祈りのご協力をお願いいたします。

* 消印のついた切手の周り1センチの余白を残して切り取って下さい。切手は日本キリスト教海外医療協力会（JOC S）に送ります。JOC S 海外に医療関係者を送ると共に医療関係者の育成をしています。

* ケニヤの恵まれない子供達やエイズの患者さん為に特別献金をしています。ご協力下さい。

* パターソンの S t. P h i l i p 伝道と社会福祉団体 CUMAC / ECHO の為に。どちらもメソジスト教団に属し、貧しい人達の為の炊き出しと路傍伝道をしています。

連絡先：英語オフィス(201) 391-5499 日本語オフィス兼ファックス (201) 505-0347

吉松牧師 (201) 391-2208 pastor@umc-japan.org 代表役員：松尾孝恵姉 Takae17A@aol.com

教会学校担当：吉松 泉姉 izumi.sakaguchi@gmail.com ホームページ：<http://umc-japan.org> * 牧師雑記帳にコメントを入れられるようになりました。ご覧ください。